伊賀市社会事業協会 2005

2005年12月15日　第 10 号
社会福祉法人伊賀市社会事業協会
発行者　森下達也
編集責任者　西岡時彦

〒518-0032 三重県伊賀市朝屋739番地の2
TEL　0595－21－5545
FAX　0595－23－6670
URL http://www.ict.ne.jp/u-s-j/ueno

また敗けるのか

社会福祉法人　伊賀市社会事業協会
会長　森下達也

遠い昔になったが、私はソ連軍占領下の旧満州からリュックサック一つで引き揚げ、旧制中学に復学した。ある日祖母が、摩り切れた私のズボンの膝に大きな継ぎを当ててくれながら、「破れたままではみっともないけれどちゃんと継ぎを当てたズボンは堂々と穿けばよいのです」と言った。衣類に不自由のない今をつくづく有り難いと思うけれど、心を満たしてくれるのは結局背広ではなく、祖母のあの言葉の方である。追い討ちをかけられるように父が病いに倒れ、私は東京で働きながら発足直後の新制高校夜間部に通った時期があった。授業開始前の夕食はコッペパン一個で、空腹と眠気に耐えながらノートをとったものだ。今、七十歳を超えて小都市伊賀に住む。時々妻のおともをして近くの大きなスーパーへ行くが、夜になってもパン売り場には様々な趣向のパンが数えきれない程並ぶ。有り難い光景であるが、何故か、遠い日のあのコッペパンの方が美味かったと思うのである。

人間は、飢えや貧困から脱出しなければ何も出来ないが、一方物質的に豊かになったからといって社会や個人の幸福が完結するものでもないこと、むしろその逆が多いことを、この半世紀に私達は思い知らされてきた。昭和二十年八月十五日、日本は陸海空の戦場で敗れ国土は焼け野原と化して降伏したが、あらためて想起すれば、生きのこった日本人すべての、心の底まで叩き潰されたわけではなかった。だからこそどん底から這い上がって物質的繁栄を勝ち取ったのだろう。だがしかしである。もしかすると今私達の国と社会は、それを支える理念と仕組み一切を含めて、六十年前の夏よりもっと大きく敗北しようとしているのではないのか。

ある国が衰頽期に入ろうとしている時、不思議なことに、古今東西共通した兆候があるという説がある。即ち、人々は楽しげなイベントに殺到し、イラスト入りの印刷物つまりマンガが好まれ、ローマ末期の入浴ブームのごとく癒(いや)しを欲求し、古典よりも軽やかな文学に関心が向かい、グルメ趣味が隆盛を極め、つまりは愚かしいオプティミズムと政治的ポピュリズムの世に至るというのである。

この興味深い説への感想は扨措き、私達が大戦後六十年かけて作ってしまった社会の現実だけは、オプティミズムなど排して直視しなければなるまい。まず国と地方の膨大な財政赤字、先進国中最低水準の出生率と人口減少社会の招来、ストレス社会と働き盛りの男性自殺者激増、地域コミュニティの無力化と犯罪の増加凶悪化、二極化する所得格差とくすぶる格差社会への不満、社会に拡がる強者讃美と弱者への無関心、教育指導理念の混乱、信じられない程低い食料自給率、まだまだあろうがもうやめよう。また降伏などまっぴらだ。

福祉も別世界ではない。算盤勘定はひとまず横に置いて、自由と平等とのバランスつまり市場競争原理と公的責任の適切な住み分けを、国民的に確認して制度構築をしなければ、大戦後六十年間に積み上げたものが音を立てて崩れはじめること必至である。

初冬の俳聖殿を散歩する子どもたち

第20回子どもたち作品展 あそびがいっぱい子どもの世界 ～自然は宝物～

平成十七年十一月五日、ゆめドームうえのにおいて子どもたち作品展を開催しました。

当協会十四保育園の子どもたちの成長を保護者とともに喜び合いたい、また地域の方々に保育園を理解していただきたいという思いで始めた作品展も、今年で二十回目を迎えました。

子どもにとってあそびはすべての出発点であり、生活そのものであることから、あそびを会場いっぱいに繰り広げました。～自然は宝物～とサブタイトルをつけ、子どもたちに可能な限りの自然に触れてもらい、感性が育てられたらという思いを盛り込みました。影絵コーナーでは、月夜の中で楽しめるような雰囲気を工夫しました。青竹の素朴な音に耳を傾けてもらえるように、また大きな冬瓜や南瓜などの収穫物に直接触って、感触を楽しんでもらえるようにもしました。そして、劇団による「赤ずきん」の上演や、日頃お世話になっている地域のお年寄りとのふれあいあそびなどを楽しんでいただきました。会場は終日、参加者がふれあう和やかな雰囲気で満ちあふれていました。

晴天に恵まれ、約三千名の来場者には、ゆったりとしたひと時を体験していただけたのではないかと思います。

この先に、あそびの世界がひろがります

“おとしよりとあそぼう”コーナーで一緒にこままわしを楽しみました

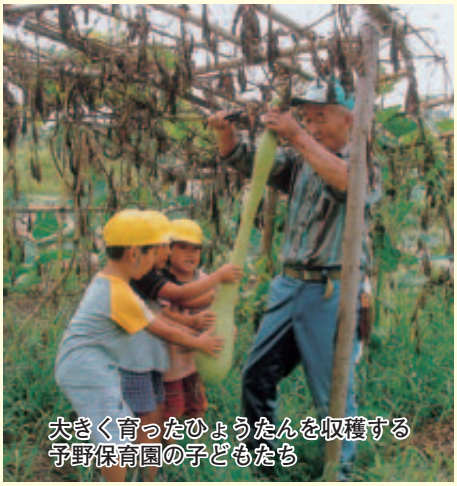
お年寄りとのひょうたんづくり

昨年の地区文化祭に出展されていたひょうたんに興味をもち、保育園でも育ててみたいという思いから、地域のお年寄りに相談をしてみました。早速その願いがかない、四月の種蒔きに始まり、水やり、草刈り、棚づくり等、園児とお年寄りとの共同作業でひょうたんを育てました。とは言っても、子どもたちは、「ひょうたんのつるって、バネみたい」「赤ちゃんひょうたんおおきくなりや」と、日に日に生長するひょうたんを観察する役にまわっていたようで、お年寄りがほとんど世話をしてくださいました。

大切に育ててきたかいあって、八月末には大きなひょうたんが三十個ほど収穫できました。収穫したひょうたんは、今では人形ややじろべえ、花びんなどに変身しています。一月にはお年寄りと一緒に何かを作ろうと計画中です。

子どもたちはひょうたんづくりを通して、お年寄りのあたたかさややさしさ、偉大さに気付かされたようです。これからも、地域の方々と共に歩む保育園であり続けたいと思います。

「影絵ってどうなってるのかな？」



大きく育ったひょうたんを収穫する予野保育園の子どもたち

みんなで作ったひょうたん、大事にはこぼうね

開園二十年を迎えた　心身障害児療育施設 かしのみ園

当協会の障害児保育事業は、昭和五十二年より、一般保育園の中でともに育ち合うという統合保育を積極的に行なってきました。しかし、一人ひとりにあった適切な療育保育が行なえるよう、一歩前進した保育形態をめざして、昭和六十年にかしのみ園が開設されたのです。

今年は開園して二十年目であることから、去る十月十五日、記念の集いを行ないました。卒園児やその保護者、さらに、発足当初から強いご支援と連帯をしていただいている関係行政当局各位の皆さまや、地域の皆さまと、スライドで療育内容や家族ふれあい会の様子などを振り返ってもらいました。また、スウェーデンで活躍されていた音楽療法士、大滝昌之さんをお招きして行なった音楽セッションでは、参加者一同が心と心をつなぎあい、一つになる心地よさを体験しあってもらいました。

暗中模索を繰り返しながら構築した〝かしのみ方式〟の理念と独自性を、さらに高めていきたいと思います。

20年間のかしのみ園の思い出を語る
上野総合市民病院　山×副院長

音楽療法士 大滝昌之さんは
記念コンサートで熱演

♪おんがく交流会♪

三重県立上野高等学校生20人が、11月17日、ひかり保育園の子どもたちに、音楽を運んできてくださいました。

学生たちは、音楽が与える不思議な力を誰かと分かち合うことで、生きた音楽が学べるのだと考え、昨年に引き続き、交流会を計画してくださったのです。

子どもたちは、毎日歌っている「どんぐりころころ」の歌を手話で教えてもらったり、「お寺のお尚さん」のふれあいあそびをしているうちに、学生への親近感が深まっていったようです。お互いにうちとけてきたところで、学生は「ふるさと」や「青い空」等を熱唱してくれました。その歌声からは、言葉では表せない生の音楽の力が、子どもたちの心と体に伝わったようです。

学生の皆さんも、歌声に聞き入る子どもたちの姿をみて、とても満足そうでした。

手話でうたう上高生と園児

地域子育て支援センター すくすくらんど 育児講演会

地域子育て支援センター〝すくすくらんど〟では、子育て中の親が誰でも経験する育児不安や、子育ての負担感を少しでも軽減できるようにという思いから、育児に関する専門の講師をお招きして、毎年育児講演会を開催しています。今年は去る、十一月八日、三重県立看護大学の臼井徳子助教授に『子どもの育ちと大人のかかわり』と題して、ご講演をいただきました。

先生は、「子どもは五感を刺激されると、健全な発育が促されるので、抱っこやふれあいあそびで肌と肌とがふれあうことが大切です」、またさらには、「生態リズムに添った規則正しい生活を送ることで、五感が心地よく刺激され、発達が促されるのです」とも話されました。

三重県立看護大学助教授 臼井徳子先生のご講演

参加者は、「子どもにすべての時間をとられているように思っていたけれど…」とか「子どもに添い寝して家事を怠けてしまった」という思いがあったようですが、今日の講演を聴いて〝今のままでいいんだ〟という安心感が得られたようです。

第5回往古梨（おこなし）まつり

十月二十九日、第五回往古梨まつりは、秋雨の中、大勢の方々にご来園いただき、梨ノ木ひろばいっぱいに張られたテントの下で開催されました。開会式での西岡時彦理事長、ご来賓の方々の挨拶に続いて、日本民謡「和泉会（いずみかい）」の皆様による津軽三味線の演奏が行なわれました。力強い三味線の音と小気味良い太鼓の響き、艶のある民謡とが調和して、素敵な「梨ノ木コンサート」になり、テントに当たる雨の音さえ忘れたひとときでした。食事コーナーでくつろいでいただいた後は、今年も各施設それぞれの催しをお楽しみいただきました。

和泉会（津軽三味線）の皆様の息の合った演奏

開会式、来賓で挨拶する長谷川正俊伊賀市上野支所長

午後からの催し

梨ノ木園では…

日頃の成果を披露する民謡クラブの皆様

ご利用者の皆さんの器楽クラブの迫力ある合奏で始まり、民謡、詩吟、カラオケ等の各クラブが日頃の練習の成果を発表。ご利用者からは「緊張したけれど、声が出せてよかった」、「声援が聞こえて嬉しかった」などの喜びの声がありました。

続いて、職員音楽隊「紫音（しおん）」が『上を向いて歩こう』と『青い山脈』を会場いっぱいに行進しながら演奏すれば、会場のお客様も手作りのマラカスや鳴子で応援参加。会場全員の大演奏と、大合唱となりました。

第二梨ノ木園では…

ボランティアの方と一緒に絵手紙作り

ご利用者やご家族、ボランティアの方々が「絵手紙作り」に熱中しました。この日のために、早くから牛乳パックを再利用して、手すきの和紙作りに励んできました。その和紙の手触りを確かめながら、机の上に並ぶ季節の草花や果実を写し取っていきます。『絵手紙いろは』の会員の方々のご指導もあって、一枚一枚に描く人の思いのこもった力作ができ上がっていきました。もしかしたら、あなたのお手元に届くかもしれませんね。

どれも力作です

老人デイサービスでは…

♪ズンズンズンズンドコ♪「きよしのズンドコ節」にあわせたダンス体操で大にぎわい。ある高校生が身体が不自由な祖母のために、リハビリの意味をこめて考え出したという体操を、長田老人クラブや大野木ゆうゆうクラブの皆様に体験していただきました。マラカスを振り、元気いっぱいリズムに乗って大いに楽しんでくださいました。

ダンス体操を楽しんでいただきました

また、敬老週間に上演した職員による寸劇『水戸黄門』を、写真で紹介しながら再演し、会場のお客様の爆笑と大きな拍手をいただきました。

梨丘園では…

プログラムの先ず始めは、音楽コーディネーターと共に「歌いましょうタイム」。会場は、一曲ごとに盛り上がり、特に「もみじ」の歌の輪唱は会場全体の心がひとつになったひとときでした。

続いて、“Let’s Show Time”と名づけた個人発表では、ご利用者がそれぞれに趣味の写真を披露したり、童謡・自作の詩の朗読、大正琴の演奏やカラオケ等々、皆さんの笑顔が溢れました。

大正琴の演奏を披露

思い出の小さな旅

盲養護老人ホーム　梨ノ木園

日本晴れの十一月十日、バスは深まりゆく秋の山道を榊原温泉河鹿荘（かじかそう）へと走ります。良質のアルカリ泉で、清少納言も入浴したと言われている名湯榊原の宿に一泊という旅です。皆さんの期待はふくらみ、バスに揺られながら、みんなでなぞなぞゲーム等で盛り上がっているうちに河鹿荘に着きました。それぞれのお部屋でひと休みした後、ゆったりと入浴を楽しんでいただきました。「つるつるすべすべになったわ！」と上気した顔の皆さんが、夕食懇親会の席に着かれました。「乾杯!!」大広間は活気に溢れました。次々に運ばれる料理をいただきながら、おしゃべりにも花が咲きます。曲あてクイズで大笑いをし、カラオケでは得意の喉を披露し合いました。楽しかった思い出を心にしっかりと刻んでくださったことと思います。いい湯といい思い出をありがとう。

榊原の湯で、つるつるすべすべになりました

“おたのしみ外出”でリフレッシュ！

特別養護老人ホーム　第二梨ノ木園

第二梨ノ木園では、ご利用者の皆さんに、園外に出てリフレッシュしていただくために、「おたのしみ外出」を実施しています。毎月、どこへ行ってみたいか、どんなものを食べたいか等の希望をお聞きして計画しています。内容は、映画館、喫茶店、レストランでのお食事、スーパーでの買い物等を楽しんでいただいています。

参加された方々は、「楽しかった」「また、行きたいわぁ」と満足されているようで、職員としても喜びいっぱいです。車中では、普段お聞きしなかった思い出話を楽しそうに話してくださったり、外の景色を眺めて移り変わる季節を感じていただいたりと、お一人おひとりが様々に活き活きとした表情をされています。

これからもご利用者の皆さんに心から楽しんでいただけるように計画していきたいと思います。

ごちそうを食べて最高の笑顔

楽しくレクリエーションを！

身体障害者療護施設　梨丘園

毎週月曜日の午後のひととき、二階のフロアーでレクリエーションを楽しみます。季節や、行事に合わせた作品作り、カラオケやトランプゲーム、そして天気の良い日は屋外へ散歩に行くなど、種類は様々です。

中でも車椅子の方々も楽しんでいただけるように工夫した、机上でのボウリングゲームは、とても人気があります。ペットボトルで作った十本のピンを狙って、真剣そのものです。やわらかいボールがピンを倒すと、みんなで拍手！点数もつけます。あっという間に時間が経って、「もう終わりなの？」というほど皆さん熱中されています。

これからもご利用者の方々が、楽しみながら参加していただけるようなリハビリやレクリエーションを考案していこうと思います。

ストライクをねらって1投目

敬老お祝い週間

「黄門様のお通りですよ！」

老人デイサービスセンターなしのき

デイサービスセンターなしのきでは、敬老お祝い週間の企画のひとつとして、女性のご利用者にはご希望により、ネイルカラーで爪の化粧をさせていただきました。ご利用者からは「まるで娘にもどったみたいやわ」と、華やいだ笑顔を見せていただきました。

午後は、職員が寸劇『水戸黄門』を演じ、「静まれー、静まれー、この紋所が目に入らぬかー」の名ぜりふにさかのぼったようなひとときでした。

ご利用者の中には、早くも来年の企画を楽しみにしてくださっている方も見えました。

黄門様と記念撮影

大喝采をいただきました。さらに職員が本物そっくりのかつらをつけ、持ち寄った衣装で工夫を凝らした姿に、手を叩いて喜んでいただきました。

寸劇が終わった後の記念写真には、ご利用者にもかつらをつけていただき、黄門様や助さん格さんに扮していただきました。時代が江戸にさかのぼったようなひとときでした。

ほけんだより

“高齢者の血圧はどこまで下げる？”

高血圧症と診断されて、お薬を飲んでいる方がたくさんみえると思います。主治医のいる病院で測定してもらい、その値で判定されているわけですが、その値を「随時血圧」といいます。みなさんはその結果で、一喜一憂されていることでしょう。しかし脳・心臓・肝臓に将来障害を起こさせないような長生きするための適正な値をご存じでしょうか？あなたの主治医の個人的な意見に左右されていませんか？

2004年に日本高血圧学会より、治療のガイドラインが発表され、現在その目標値まで降圧することが推奨されています。特に問題となるのが高齢者に関してだと思いますが、年齢に関係なく140/90mmHg未満が目標で、理想は125～135/65～85mmHgです。この値が1日維持できる治療を是非受けて下さい。随時血圧だけでは完璧ではありません。起床時、緊張した際の値も、先程の適性値内にあることが大事で、家庭での血圧測定をお勧めします。高い時間帯のある方や逆に下がり過ぎてるのではないかと不安をお持ちの方は、早目に主治医に相談しましょう。現在の降圧剤治療では、ほぼ全員の方が適性値にコントロールできます。毎日飲むお薬なのですから、あなたに合った長生きできる治療を受けたいものです。

梨ノ木診療所　水谷敬一医師

中学生一日職場体験

上野点字図書館

伊賀地方の各中学校では進路指導の一環として、地域の中で職場体験を実施しています。十月七日、上野点字図書館でも、青山中学校の全盲の男子生徒一名を受け入れました。この日体験していただいた仕事は、点字版「スポーツ大会要項書」の製作でした。内容の確認、ホッチキス綴じなど、普段とは違う慣れない作業に少し戸惑っている様子でしたが、間もなく慣れてていねいに作業をすすめてくれました。

後日、体験された生徒の方からお礼の手紙をいただきました。そこには、「自分のことは自分でできるように、これからもいろんなことに挑戦していきたい」と前向きな気持ちがつづられていました。

今回の体験がご自分の将来を考える上で、少しでも参考にしていただければ幸いです。

点字で打ち出された連続用紙を切り離す仕事を体験していただきました

音訳 点訳 ボランティアの集い

上野点字図書館では、十一月二十九日『点訳・音訳ボランティアの集い』を実施しました。「川端康成文学館」・「毎日新聞大阪本社点字毎日部」・「適塾」の見学研修は、参加された皆様方に大変喜ばれました。

武石勇氏作"爽韻（そういん）"のオブジェの前で（川端康成文学館にて）

地域巡回リハビリテーション指導 看護師と一緒にリハビリ

かしの木ひろばでは、開園した平成六年より毎年九月と三月に、三重県身体障害者総合福祉センターの医師と、理学、作業、言語などの専門スタッフにお越しいただき、リハビリテーション指導を行なっていただいております。

まず医師に受診し、困っていること等の相談にのっていただきます。その後それぞれ各療法士には、半年前との変化の様子を、身体を動かしながら確認し、これからのリハビリプログラムを作成していただきます。そのプログラムに添って看護師や職員とリハビリ訓練を開始します。ご自宅でもヘルパーがプログラムを参考にしてリハビリを行ないます。

在宅では本格的なリハビリ訓練を行なうことは難しいですが、毎日の生活の中で身体を動かすことがリハビリにつながると指導をいただいています。

指示書をもとに、リハビリに励みます

身体障害者デイサービス施設

かしの木ひろば　秋のバス旅行

10月4日（火）と18日（火）の2日間、多くのボランティアの方々にご協力いただき、バス旅行に出かけてきました。

心地よい青空のもと、公園内を散策しました

4日は、東名阪自動車道亀山サービスエリア内の亀山サンシャインパークへ。お天気も良く、美しく整備された池のほとりの遊歩道をのんびり散策し、それぞれの秋を感じていただきました。

18日は中部国際空港へ。「飛行機を見るのは初めて」というご利用者もいて、間近で離着陸する飛行機の迫力に大興奮でした。

真新しい空港で記念撮影

▶セントレアには、さまざまな国の飛行機が離着陸します

バス旅行後の「かしの木ひろば」は、お互いの旅の思い出話しでもちきりでした。

旅行の参加者には、体調等に合わせて事前に希望の場所を選んでいただきました。それぞれご満足いただけたのではないかと思います。

お知らせひろば

ご支援ご協力いただいている方々
（平成十七年六月～平成十七年十一月）

《個人》
―敬称略・五十音順―

味岡　一典、有野　康昭、井岡　　昭、猪口アキエ、石原　京子、伊藤　利史、稲垣紀代子、猪木　千里、上田　順子、上谷　隆昭、臼井　卓士、内堀　久子、海野　佳世、太田　久子、岡森　明彦、岡森眞理子、奥田　英夫、奥田やえ子、加藤　寛、川浪　玲子、北寺　知一、欅　悦子、小竹　五夫、後藤　のぶ、小林　清勝、小林ふじ智、阪口　建一、相楽千代子、佐々木聖子、下市　晴之、杉本ちえみ、杉本　将、朱雀　文雄、高田　昇、竹岡　玲子、竹島　和実、立田　健、田中　貞朗、田中　しえ、田中三紀代、田中美代子、谷本　善、玉川　弘毅、塚本　寶、戸上　宗賢、豊田　実、豊田　礼子、中井　純一、中出　潔己、中坂　寛宏、中西　康子、長町　尚格、中村　節子、中村　町子、中森　勇、中山　重男、新川　泰弘、西口　妙子、西出　成子、西出　孝子、西山　進、野田　宇乃、長谷川かよ子、服部　龍子、服部　康祐、浜口　隆志、林　利明、東本　光生、福田三重子、藤田　惟孝、古川　節郎、別所　法山、堀池　貞巳、前川萬機子、真砂さなへ、松田　幹郎、松永　清、松本　学、松山　周子、溝端　輝広、皆川　隆、南出　恒久、宮野　瞳、村井　充子、百上富美子、森　栄子、森下　弘子、森田　満枝、森本　剛士、八尾　彰一、安木　博之、保田　信治、山岡　敏子、山﨑　征治、山下　和宏、山本　浜子、吉岡　正巳、吉村真智子

《団体》
―敬称略・順不同―

伊賀市更生保護女性の会上野支部、上野点訳奉仕グループあい、上野音訳グループしのび、名張点訳奉仕グループあかり、名張音訳グループこだま、絵手紙いろは、JAヘルパー事務局、にんじんクラブ、ボランティアグループあゆみ、ボランティアグループミックスジュース、あけぼの学園高等学校、上野高等学校、上野商業高等学校、長田小学校、三重保育院、大内地区、大滝地区、大野木地区、大野木ゆうゆうクラブ、小田町公民館、小田町自治会、桂地区、桑町老人クラブ、七本木地区、白樫地区、しらさぎ地区民生委員協議会、中瀬区長会、長田市民センター、長田地区住民自治協議会、長田老人クラブ連合会、長田老人クラブ連合会婦人部、治田地区、花垣地区住民自治協議会、花之木公民館、花之木児童福祉会、古山区長会、古山市民センター、古山地区民生児童委員、法花地区、三田公民館、三田地区自治連絡協議会、南山城村役場、予野地区、恒風寮、福寿園、西蓮寺、常住寺、平井神社、伊賀市上野仏教会、伊賀上野ライオンズクラブ、伊賀市上野老人クラブ連合会、伊賀文化産業協会、上野視覚障害者福祉会、上野ロータリークラブ、上野東ロータリークラブ、蕉門ホール「語り部塾」、水月会、チャリティー寄席実行委員会、日本民謡「和泉会」、マンドリンアンサンブルセシリア、芳華会、伊賀市立上野総合市民病院、大矢歯科、岡波看護専門学校、岡波総合病院、森本整形外科医院、東食品店、伊賀北部農協長田ふれあい店、伊賀北部農協古山ふれあい店、上野ガス、大内郵便局、小川整備、小川モータース、奥田理容店、金谷、欣榮堂、グリーンティー高尾、甲野屋、コーカ共同製茶、親和工務店、竹澤商店、伊達商店、田山北部共同製茶工場、田山南部共同製茶工場、田山第一共同製茶工場、鶴寓、名張屋製麺所、鍋本商店、西尾デンキ、西澤精肉店、福田豊工務店、古山郵便局、マルソウ、村脇電気、名阪設備工業、八百市、米岡家具センター

施設案内～地域と共に～
盲養護老人ホーム 梨ノ木園

「梨ノ木園」は昭和四十六年に開園した三重県下唯一の盲養護老人ホームで、視覚に障害のあるご利用者が七十名生活されています。上野城をはじめ、市街地が一望できる当施設は、豊かな自然に囲まれ、四季の移り変わりをより身近に感じ取ることができます。また、地元の保育園児や小学生との交流、往古梨まつり、一泊温泉旅行など、さまざまなイベントがあり、日常では、俳句、書道、詩吟、点字などクラブ活動も盛んです。

梨ノ木園の正面と遊歩道に通じるスロープ

施設内には随所に点字の標示があり、音声付エレベーターや細部に渡って手すりが設置されているなど、ご利用者が施設の中を自由に安心して移動できるよう工夫されています。また、職員は視覚障害者ケアの専門的研修を積み、さらなる資質向上を目指しています。そして、定期的に日々の業務を細かく見直し、ご利用者お一人おひとりに合ったケアができるよう心掛けています。

梨ノ木園は、来年で開園三十五周年を迎えます。職員はご利用者お一人おひとりのお話に耳を傾け、安心して心豊かに生活していただける施設づくりを目指しております。そして、これからも地域とのつながりを大切にし、より一層深い信頼関係を築いていきたいと思います。

編集後記

2002年１月20日、会報第１号が産声を上げ今回で、節目の第10号を発行することができました。これもひとえに皆様のご支援のお陰と感謝の気持ちでいっぱいです。

今年も残り少なくなりましたが、社会情勢は相変わらず先の見えない状況です。このように混沌とした時だからこそ、2006年には当協会の英知を結集させ、地域の皆様の負託に応えていきたいものです。今後とも皆様の温かいご理解とご協力をいただければ幸いです。

（編集子）

『伊賀』を撮る

「予野の八重桜公園～稲畑汀子さんの句碑」
藤岡和子（予野保育園）

「小春日和の城之越遺跡大溝」
岡本美江（花之木保育園）

「木津川の流れ　岩倉峡を望む」
薮山登貴（みどり保育園）

「西の御旅所」
松田柄子（曙保育園）

「晩秋の愛間亭（上野公園内）」
山　京子（曙保育園）

「大野木菅原大還神社の秋まつり」
千早祐一来（第二梨ノ木園）

「西蓮寺の石段と紅葉」
薮内　勝（梨ノ木園）

「初冬の味覚　日野菜の畑」
稲森美智子（かしの木ひろば）

「葛尾のムクロジ」
竹内佐千子（ゆめが丘保育所）

「秋　爛漫」
上杉美知代（睦保育園）

「紅葉する白藤の滝」
前川ちえ子（府中保育園）

「桃青中学校の銀杏並木」
松生泰子（曙保育園）

「秋の深谷池」
森島夕貴（曙保育園）

当協会の施設

1	盲養護老人ホーム 梨ノ木園	（定員）70人
2	特別養護老人ホーム 第二梨ノ木園	50人
3	老人ショートステイ	20人
4	老人デイサービスセンター なしのき	
5	在宅介護支援センター なしのき	
6	梨ノ木診療所	
7	曙保育園	180人
8	睦保育園	90人
9	三田保育園	60人
10	中瀬城東保育園	115人
11	友生保育園	75人
12	花之木保育園	45人
13	予野保育園	45人
14	長田保育園	45人
15	古山保育園	45人
16	みどり保育園	150人
17	心身障害児療育施設 かしのみ園	
18	ひかり保育園	120人
19	みどり第二保育園	120人
20	府中保育園	90人
21	ゆめが丘保育所	200人
22	上野点字図書館	
23	伊賀市盲人ホーム	
24	身体障害者デイサービス施設 かしの木ひろば	
25	伊賀広域在宅障害者生活支援センター かしの木	
26	身体障害者療護施設 梨丘園	20人
27	児童クラブ フレンズうえの	
28	児童クラブ キッズうえの	
29	児童クラブ ウイングうえの	
30	児童クラブ レインボーうえの	
31	児童クラブ 風の丘	
32	法人本部事務局	